持続的な交流の創造と地域の活性化に寄与

JTB交流文化賞が10周年

観光交流による地域活性化の取り組み事例を求む―。JTBは、地域の組織・団体を対象とした「JTB交流文化賞」の作品募集を8月1日から始めた。2005年に創設され、今年で10回目を迎える。

JTBが受賞後も応援

JTB交流文化賞は、地域に根ざした持続的な交流の創造と、各地域の魅力の創出、地域の活性化に寄与することを目的としている。

大きな特徴は、「持続可能な観光」を応援する賞だということ。受賞した地域の取り組みに対しては、表彰して讃えるだけでなく、さらなる地域の持続的な発展につながるよう、JTBが受賞後に商品化やプロモーションなどによって全力でバックアップしていく。

選考は「一過性のイベントではなく、持続的な観光振興や地域活性化への波及や貢献が見込まれる」「地域資源の活用など地域の独自性が生かされている」「地域の中で、さまざまな人、組織が連携している」などを基準に行われる。

なお、組織・団体を対象としているほか、実際の旅行体験に基づいた交流を題材とした個人の旅行を表彰する「交流文化体験賞一般部門」「同ジュニア部門」もある。

2006年4月、JTBは「地域密着」を掲げた地域会社に分社化。また事業ドメインを、これまでの総合旅行業から脱却して、地域を舞台にあらゆる交流を創造する「交流文化事業」と定義した。正対する地域に寄与し、併せて、交流文化事業というJTBの事業ドメインを広く社会に知らせるため、05年に創設されたのがJTB交流文化賞だった。

過去9回の受賞作品を振り返ると、第1回の最優秀賞を射止めたのは兵庫県豊岡市企画部コウノトリ共生課「コウノトリも暮らすまちへ 豊岡の挑戦」。JTBは翌年、「このコウノトリ保護の取り組みを団体向け企画旅行として商品化した。受賞後にもJTBが11年の第7回だ。3月11日と示された事例だ。

地域に寄与するためのそれを最も象徴するのが2007年の東日本大震災で多大な被害を受けている。

受賞によって「自信がついた」「活動の幅が広がった」という地域の声も多い。今年は9月15日が応募の締め切り。

9年間を振り返る

受賞が地域の自信に

地域を支援することの証左だ。

豊後高田市観光まちづくり株式会社「豊後高田『昭和の町』物語」が第2回の優秀賞。昭和の町は、受賞が起爆剤となり、翌年から入り込み観光客数を大きく伸ばす。賞によ

株式会社「豊後高田『昭和の町』物語」が第2回の優秀賞。昭和の町は、受賞が起爆剤となり、翌年から入り込み観光客数を大きく伸ばす。賞によ

「漁村の暮らし体験が地域を再生する『番屋エコツーリズム』」は、漁村体験プログラムを地元の熱意でいち早く復活し、最優秀賞に。賞は東北観光の復興を応援するJTBのエールと言えるだろう。

第9回の最優秀賞、神岡・町づくりネットワーク「線路よ響け!!いつまでもレールマウンテンバイク『Gattan Go!!』」についても、旅行商品化され、高い評価を受けている。

受賞によって「自信がついた」「活動の幅が広がった」という地域の声も多い。今年は9月15日が応募の締め切り。

第9回 最優秀賞

線路よ響け!! いつまでもレールマウンテンバイク「Gattan Go!!」

NPO法人　神岡・町づくりネットワーク（岐阜県飛騨市）

評価のポイント

江戸時代から日本の社会・産業の発展を陰で支えてきた神岡鉱山。馬車軌道から始まった神岡鉄道は、2004 年の廃線まで飛騨神岡地域の歴史そのものであった。地域の人々にとっては廃線を交通近代化の結果とあきらめるわけにいかず、地域の歴史である軌道を守ることへこだわり、地元有志のアイデアと熱い思い、地元企業のモノづくりの精神がレールマウンテンバイクを生み出した。シンプルながら軌道そのものを体感し楽しめる観光資源に転換したことが素晴らしい。そして、モノづくりへのこだわりから、さまざまなタイプのバイクを生み出し続け、山間から楽しさのこだまが伝わってくる取り組みである。

優秀賞

八女の町家で暮らそっか？―町並みの輝きを再び取り戻す人々の挑戦

八女文化遺産保存・活用ネットワーク（福岡県八女市）

優秀賞

負の遺産を町の宝に！「尾道空き家再生プロジェクト」

NPO法人　尾道空き家再生プロジェクト（広島県尾道市）

第1回 最優秀賞

コウノトリも暮らすまちへ 豊岡の挑戦

兵庫県豊岡市企画部コウノトリ共生課

評価のポイント

コウノトリを単に復活させただけでなく、農業、食、地域のあり方など、地域全体を蘇らせた示唆に富んだ取り組みである。地域住民が一体となり自然環境を守っていく、未来志向型の交流文化の取り組みといえる。

優秀賞

「究極のグリーン・ツーリズム」を標榜する達者村

青森県名川町観光振興課（現南部町農林課グリーン・ツーリズム推進室）

優秀賞

新潟最北の城下町「村上」明日をかけた市民まちづくりの挑戦

新潟県村上町屋商人（あきんど）会、チーム黒塀プロジェクト、むらかみ町屋再生プロジェクト（新潟県村上市）

創設記念審査員メモリアル賞

「YOSAKOI ソーラン祭り」― 新しい交流文化の創造とその広がり ―

北海道札幌市 YOSAKOI ソーラン祭り組織委員会

第2回 最優秀賞

歴史的遺産を活用したまちづくり ～イベント「小樽雪あかりの路」を通じて～

小樽雪あかりの路実行委員会（北海道小樽市）

評価のポイント

小樽運河や手宮線の廃線跡を利用して市民有志が手作りで始めたイベントが北海道の冬の風物詩にまで成長。景観保存から通年観光への努力と継続性、市民ボランティアと観光客との交流、外国人ボランティアの参加など官民をあげてますます拡大していることを高く評価した。

優秀賞

豊後高田「昭和の町」物語

豊後高田市観光まちづくり株式会社（大分県豊後高田市）

優秀賞

越後妻有　アートをみちしるべに里山を体験する旅

大地の芸術祭実行委員会（新潟県十日町市、津南町）

特別賞

ジョイントで取り組む農と心の教育体験 ～安心院型グリーンツーリズムの新たな展開～

大分県宇佐市

第3回 最優秀賞

「ハットウ・オンパク」を通じた地域資源開発と町づくり

NPO法人ハットウ・オンパク（大分県別府市）

評価のポイント

別府から生まれた別府八湯温泉泊覧会が地域住民、事業者、大学、行政などを巻き込み地域振興のスキームづくりとして全国へ広がっていることを高く評価。

優秀賞

松浦党の里ほんなもん体験

特定非営利活動法人 体験観光ネットワーク松浦党／松浦体験型旅行協議会（長崎県松浦市）

優秀賞

ゆくたび感動 国際観光都市「飛騨高山」

岐阜県 高山市

第4回 最優秀賞

小さな離島の未来への挑戦！

NPO法人おぢかアイランドツーリズム協会（長崎県小値賀町）

評価のポイント

五島列島北端にある旧平戸藩の典型的な過疎の島。地域資源を最大限生かした取り組みを行い、PTPでは全島あげてアメリカの高校生を受け入れ世界一の評価を得ている。子ども自然体験キャンプ事業、インバウンド事業、民泊事業と着実に実績を上げて自立経営を実現したことを高く評価。

※PTP: アメリカの民間教育団体「ピープル・トゥ・ピープル」による国際親善大使派遣プログラム

優秀賞

語りのある街・桜川市真壁町

まちづくり真壁（茨城県桜川市）

優秀賞

農家蔵保存利活用とグリーン・ツーリズム

特定非営利活動法人 尾上蔵保存利活用促進会（青森県平川市）

選考委員特別賞

ふるさとへの誇りをのせて、港町にジャズは響く ～若者の熱意が生んだモントレージャズフェスティバル in 能登の20年～

モントレージャズフェスティバル in 能登　実行委員会（石川県七尾市）

第5回 最優秀賞

小さな町に大きな図書館ができてから・・・・演劇の町、交流の町になりました。さらに姉妹館ができました。

遅筆堂文庫生活者大学校（山形県川西町）

評価のポイント

山形県南部に位置する「川西町」は作家井上ひさし氏の生まれ故郷の小さな町。同氏との交流によって開かれた「遅筆堂文庫生活者大学校」は、地域の文化、農業の交流発信の拠点となっている。同氏が寄贈してきた21万冊の蔵書を持つ「遅筆堂文庫」という地域図書館や「こまつ座」による演劇の公演など、20年以上に渡り継続し、また、農場や地場の産業の活性化に貢献している点を評価。

優秀賞

外国人旅行者に京都から日本の魅力を発信！

有限会社ワックジャパン（WAK JAPAN）（京都府京都市）

優秀賞

世界に向けた田辺の挑戦 ～外国人に優しいまちづくり～ 持続可能な世界標準の観光地をめざして

田辺市熊野ツーリズムビューロー（和歌山県田辺市）

第6回 最優秀賞

田舎っぷりが大自慢！！「若狭三方五湖わんぱく隊」が"地域の誇り"へ

社団法人 若狭三方五湖観光協会（福井県三方上中郡若狭町）

評価のポイント

高齢化に悩む地域の漁業従事者の、「漁師としての仕事、生業の海を子供たちに伝えたい」との思いから、1990年に漁業体験学習の受け入れが始まり現在まで継続されている。行政や外部主導の取り組みでなく、あくまで地域の人の手により立ち上げ、しかもビジネスとしての自立を当初から目指したことが今日まで継続出来たことの要因と言える。さらに今後は教育旅行だけでなく、個人旅行の受け入れにも発展させつつある。以上のような活動を20年に渡って継続させ、漁業だけでなく地域の活性化に貢献している点、今後の発展を期待できる点を評価。

優秀賞

日帰り農村生活体験：ほっとステイ

株式会社 信州せいしゅん村（長野県上田市）

優秀賞

交流は地域との連携から ～地域資源は誰のもの？～

一般社団法人 信州いいやま観光局 なべくら高原・森の家（長野県飯山市）

選考委員特別賞

市民創作「函館野外劇」

NPO法人市民創作「函館野外劇」の会（北海道函館市）

第7回 最優秀賞

漁村の暮らし体験が地域を再生する「番屋エコツーリズム」

NPO法人 体験村・たのはたネットワーク（岩手県下閉伊郡田野畑村）

評価のポイント

地域の伝統的な生活様式である「番屋」を体験観光のソフトとして活用し実績を積んできたが、今般の震災で多大な被害を受けた。その影響がまだ後を引いている中で、被災地見学、防災教育という新たな体験の視点を加え、果敢に地域の人々の手による着地型観光をいち早く復活された熱意と思いに敬意を表したい。着地型観光を通じた交流の復活がエンジンとなり、漁業、地域の復興につながることを祈念したい。

優秀賞

何もないけど何かある…。無人駅を、ひとのあつまる場所に。

JR下灘駅フィールドミュージアム運営委員会（愛媛県伊予市）

優秀賞

若者に伝えたいんや！！町工場のおっちゃんが熱く語る"モノづくりの心"

東大阪"モノづくり観光"活性化プロジェクト協議会（大阪府東大阪市）

第8回 最優秀賞

「花嫁のれんのまち」のと・七尾 ―本杉通り「語り部処」でふれあい「茶の間の観光」

一本杉町町会（石川県七尾市）

評価のポイント

旧加賀藩下に幕末から伝わる婚礼の風習、「花嫁のれん」をテーマに、衰退しつつある商店街の活性化を進めた。毎春9年間開催している「花嫁のれん展」で好評な「語り」を楽しむ「語り部処」を各店舗につくり、名古屋・東京・関西地区で「語り」と合わせた「花嫁のれん展」を開催するなど、進化し続けている。加賀友禅と仏間の生活文化そのものが自分たちの文化財という地域の誇りが感じられた。ノスタルジックな点がむしろ新しい。

優秀賞

祖先の痕跡が残る空間「ガンガラーの谷」守るために価値を伝える

株式会社南部（沖縄県南城市）

優秀賞

学生ボランティアが運営する新今宮観光インフォメーションセンター

阪南大学国際観光学部 松村嘉久研究室（大阪府松原市）

第10回 JTB交流文化賞 募集中!

締め切り 2014年 9月15日（月・祝）

おかげさまで、今年「JTB交流文化賞」は10周年を迎えます。
地域に根ざした持続的な交流の創造と各地域の魅力の創出、
地域の活性化に寄与することを目的として、2005年に創設され、毎年開催しています。
今回も各地における観光振興に対する斬新な取り組みや、
実際に体験した交流文化の事例を募集・選定・表彰するとともに、受賞地域を様々なかたちでバックアップして参ります。
多くの皆様のご応募を心よりお待ち申し上げております。

観光振興・地域活性化の取り組みを募集

交流文化賞（組織・団体対象）

JTBは、地域の観光交流・地域活性化の取り組みを支援・推進いたします。

●『わが"まち"に誇りを持つために』

地域活性化の活動は、従来から地域に生き続けている自然や文化、歴史などの価値を損なうことなく、地域が持つ豊富な知恵や特性を存分に活かしたアイデアを盛り込むことが重要です。等身大のまちの姿をありのままに伝えながら、まち全体でもてなす工夫を見つけた時、旅行者に新鮮な感動を与えられ、地域の皆様はわが"まち"に誇りを感じられることでしょう。そんな地域の取り組みを教えてください。

募集内容

名称	交流文化賞	応募様式	指定の応募用紙
対象	組織・団体		
テーマ	国内外を問わず、地域として、地域固有の魅力の創出・需要の創造、地域活性化、双方向の文化交流など、オリジナリティを活かした「持続可能な観光」の取り組み事例を募集します。 ※前回応募いただいた取り組み事例も応募いただけます。	最優秀賞	1作　賞金100万円
		優秀賞	2作　賞金50万円

旅の体験記を募集

交流文化体験賞

目で見るだけでは物足りない。五感で感じて触れあった旅の体験ほど、心に深く刻まれて人生での大きな糧となるでしょう。著名な観光地を訪れるだけではなく、自らが見つけて、知って、交流するという能動的な旅のスタイル。交流文化体験賞では、旅を楽しむあなたの、人と人とのつながりやふれ合いから生まれたエピソードを募集しています。

一般部門（一般個人対象）　ジュニア部門（小学生・中学生対象）

募集内容、応募要項など詳しくはホームページをご覧ください。

第10回 JTB交流文化賞選考委員

安島 博幸
立教大学 観光学部教授

森 まゆみ
作家

政所 利子
(株)玄 代表取締役

松平 定知
京都造形芸術大学教授 国学院大学 客員教授

見城 美枝子
青森大学教授・エッセイスト・ジャーナリスト

久保田 穣
(株)ジェイティービー 常務取締役

郵送またはインターネット※でご応募いただけます。
詳しくはホームページをご覧ください。
※交流文化体験賞ジュニア部門は郵送のみ受付

JTB交流文化賞　検索

お問い合わせ先　JTB交流文化賞事務局（株式会社JTB総合研究所内）
TEL.03(3525)4559(10:00~17:30　土・日・祝日休み)
FAX.03(3525)4565　e-mail: jtb-kbunkasho@tourism.jp

JTB 感動のそばに、いつも。